

こんにちは、中村です。6月に入り当所でも制服を夏服に衣替えしました。毎年この月を迎えると何か新しい心持になります。皆様お変わりなく元気でご活躍のことと思います。

日本政府のe-Japan計画によれば、2005年には、政府において全ての申請が電子化される予定です。申請者がパソコン等を使えなくても電子申請・届出を利用し、行政書士など代理人の活用により、オンラインとオフラインを有機的に連携し活用でき、行政にとっても審査などの簡略による事務処理の効率化等ができます。世の中がどう変わっても皆様から信頼される事務所でありたいと願っております。おかげさまで、渋谷で開業し新宿へ、今年で25周年を迎える事ができました。ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

## ～ますます便利になったオンライン登記情報提供制度～

本年3月24日よりオンライン登記情報提供制度がますます便利になりました。オンライン登記情報提供制度とは簡単に言えば、コンピュータ化された登記所(コンピュータ庁)の管轄内の登記情報であれば、インターネットにより登記所に足を運ばなくても会社・自宅で登記情報を確認することができる制度です。提供される登記情報は一部を除いて、不動産・商業・法人登記などコンピュータ化された登記簿に記録された事項の全部についての情報です。

これまでは利用するにあたり、あらかじめ協会に利用者登録をして利用者識別番号(ID)とパスワードの交付を受け利用することになっていましたが、クレジットカードによる即時決済でより利用しやすくなりました。

また、10桁の数字からなる「照会番号」の発行により、行政機関等に対する電子申請(オンライン申請)において登記簿謄抄本の代わりに照会番号を添付することにより申請等を受けた行政機関等は、この照会番号に基づきインターネットで登記情報の確認をすることができるようになりました。

### 利用時間

土日祝日・年末年始をのぞいた午前8時30分より午後7時まで  
(メンテナンス等により1部例外あり)

### 利用料金

1部情報をのぞいて金額980円 (登記手数料870円+協会手数料110円)

### 詳細

財団法人 民事法務協会登記情報提供センター

TEL 03-5297-3751 FAX 03-5297-5045

URL <http://www.touki.or.jp/>

E-mail [info@touki.or.jp](mailto:info@touki.or.jp)



(佐久間)

## シリーズ 建設業Q & A

Q. 個人を法人にする利点とは?

A. 個人を法人にすると、社会的な信用が得られ事業規模を拡大することが比較的容易になります。また、節税に役立ちます。

### <経営面>

経営者に事故があったとき、取締役または代表取締役を変更することで事業を継続することができる

家計と経営が分離され、銀行や取引先の信用が得やすい

代表者は出資額を限度として会社に責任を負うだけで、債権者に間接有限の責任を負うに過ぎず、危険を分散しやすい(ただし、取引の個人保証をしたときを除く)

### <資金面>

借入れや増資の方法も選択ができ、資金調達の幅が増える

### <税務面>

代表者の給与が課税上損金とされ、給与に所得控除が摘要される

代表者や家族従業員の退職金が損金とされる

代表者所有の資産の質借料も損金とされる

決算月を自由に選べる (藤田)

## 6月4日は虫歯予防デー

6(ム)と4(シ)で虫歯の日。昭和3年に、歯科医の集まりで決められました。昭和30年には、6月4日から一週間を歯の衛生週間とすることにしました。

虫歯を防ぐためにかかせないのが歯ブラシですが、その歴史はとても古いのをご存知ですか?

日本には平安時代、古代インドで使われていた歯木(シボク)が、仏教とともに中国を経て伝来したのが最初の歯ブラシのようです。それは菩提樹の木片の先端をかみ砕いて房状にしたものでした。その後それは房楊枝または楊枝と進化し、僧や仏教徒の間で広まりました。江戸時代になると、房楊枝や爪楊枝を売る専門店「楊枝屋」も登場、広く一般に普及し、大正時代まで使われていました。現在のような歯ブラシが作られたのは明治5年です。インドから輸入したイギリス製の歯ブラシを見本に、鯨のヒゲで柄を作り、馬の毛を植えました。クジラ楊枝と呼ばれました。初めは横楊枝(西洋式) 歯楊枝、歯磨楊枝といった名で呼ばれていたのですが、明治23年の第3回内国勸業博覧会で歯刷子の名称で出品されたのが、「歯ブラシ」という言葉が使われた始まりといわれます。

人間の歯は生後数か月で乳歯が生え始め、20本。6才ごろからそれが抜け始め、永久歯が生えてきます。永久歯の数は32本で、一度ぬけたら、もう生えてきません。一生使えるよう、大切にしたいものです。(渡辺)